

野田九条通信

2012年1月73号

「野田・九条の会」事務局

TEL 7122-0502

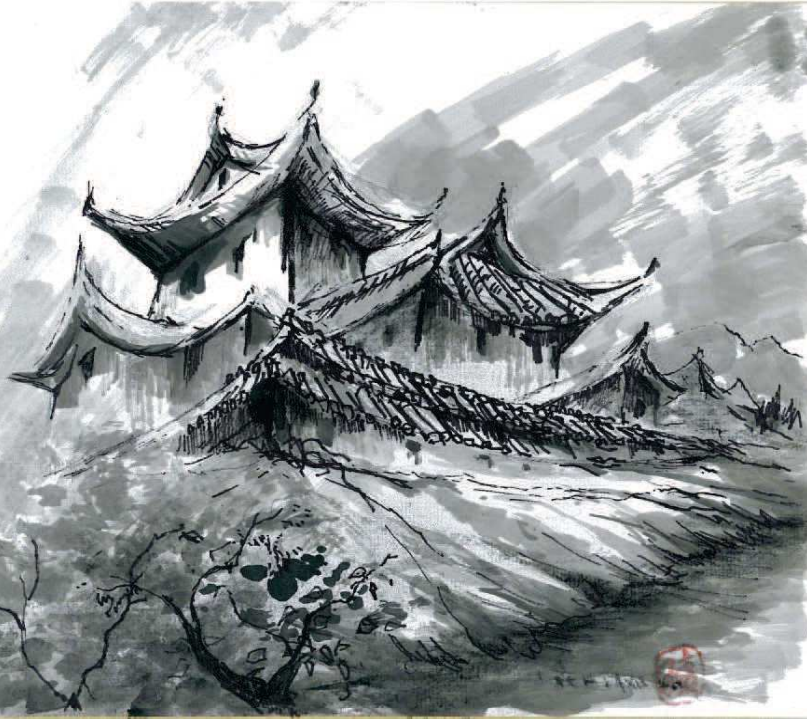
野田九条の会ホームページ

<http://www17.ocn.ne.jp/~art>

「新しい年の始めに」

去年も今年も冬がことのほか寒いようです。大震災で家を失った人々の寒さはいかばかりかと胸が痛みます。けれど庭へ出てみると梅の木の枝々についていた小さな蕾はふくらんできました。間もなく花が咲いてふくよかな香りを漂わせることでしょう。

自然の力は偉大です。時に怖ろしい力で災害をもたらします。でも人間もまた、たくましい精神力と労働によつて被災から立ち直り復興を上げることができるよう。幾度か受けた災害から復興した歴史がそれ物語っています。



絵 野田・九条の会呼びかけ人 関綾子

ただ原発事故の放射能飛散による広範な被害は別です。これは人災であり、原爆と同じ未来にわたる禍いです。原子力発電の問題は、かつて日本がおかした過ちの戦争と似ており、国民は戦争に反対したり批判したりすることは絶対に許されませんでした。「神国日本」は絶対に勝つと信じ込まされて、戦争遂行のために他のすべてを犠牲にしました。挙句三百万人も日本人と二千万にのぼるアジアの人々の命が奪われました。

原子力発電についても最初危険を警告し反対する学者・科学者はおりましたが、しりぞけられ、「安全神話」だけがまかり通りました。人間が制御できない原子核燃料をできると過信した学者や政府や電力会社幹部は自然や科学に対する思い上がりがあったといえます。一刻も早くすべての原発を廃止することを決め、太陽光や小型水力、地熱などの自然エネルギーに変えるべきです。

今月の予定

- 1月9日(祝) 9時～ 新成人にアピール 野田市総合体育館前
- 1月14日(土) 10時～12時 定例会 紙ふうせん清水店
- 1月15日(日) 10時 さよなら原発 署名集め
うめさとグリーンパーク自治会館前集合、住宅地を回って署名集めをします
- 1月27日(金) 10:30～12:30 学習会 樺のホール4階 和室
「福島の今と私たち」放射能汚染から子どもたちを守る会 主催
- 2月4日(土) 14時～「今語る ニューギニア戦の真実」
樺のホール4階 研修室 語り部の会 主催
- 2月5日(日) 13時～ DVD上映会「BOX 袴田事件 命とは」
南部梅郷公民館 野田南9条の会 主催

今年成人式を迎え、未来を担っていく若い方々は、どうか国の政治が平和や人々の幸せにプラスになっているか否かを見極める叡智をもって生きていただきたいと願っております。その指針として憲法の条文を熟読するのもよいのではないのでしょうか。

野田・九条の会呼びかけ人
森本房子

野田九条通信

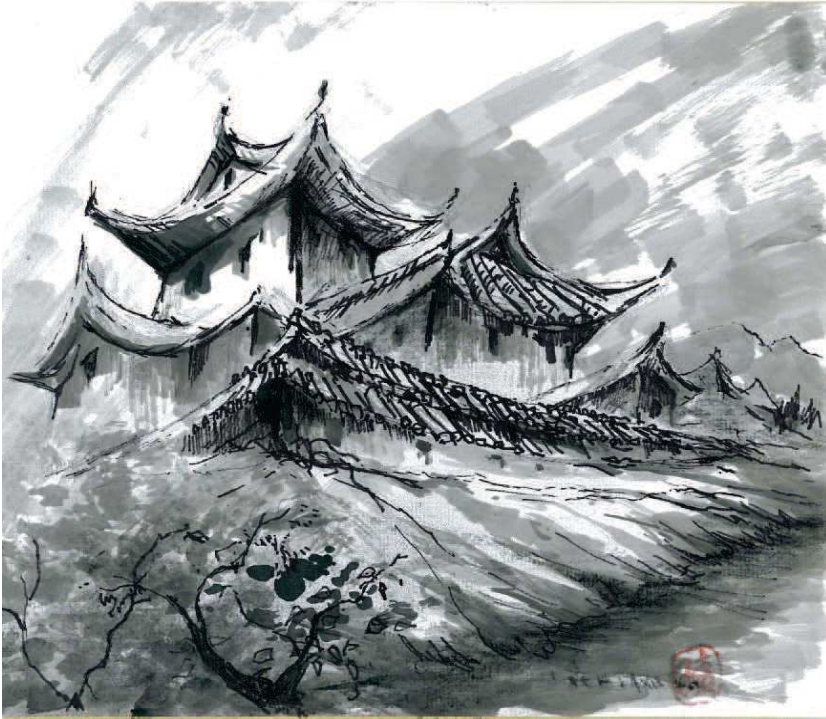
2012年1月73号

「野田・九条の会」事務局

TEL 7122-0502

野田九条の会ホームページ

<http://www17.ocn.ne.jp/~art>



絵 野田・九条の会呼びかけ人 関綾子

成人おめでとー！ 「新しい年の始めに」

去年も今年も冬がことのほか寒いようです。大震災で家を失った人々の寒さはいかばかりかと胸が痛みます。けれど庭へ出てみると梅の木の枝々についていた小さな蕾はふくらんできました。間もなく花が咲いてふくよかな香りを漂わせることでしょう。

物語っています。

ただ原発事故の放射能飛散による広範な被害は別です。これは人災であり、原爆と同じ未来にわたる禍いです。原子力発電の問題は、かつて日本がおかした過ちの戦争と似ており、国民は戦争に反対したり批判したりすることは絶対に許されませんでした。「神国日本」は絶対に勝つと信じ込まされて、戦争遂行のために他のすべてを犠牲にしました。挙句三百万人も日本人と二千万にのぼるアジアの人々の命が奪われました。原子力発電についても最初危険を警告し反対する学者・科学者はおりましたが、しりぞけられ、「安全神話」だけがまかり通りました。人間が制御できない原子核燃料をできると過信した学者や政府や電力会社幹部は自然や科学に対する思い上がりがあったといえます。一刻も早くすべての原発を廃止することを決め、太陽光や小型水力、地熱などの自然エネルギーに変えるべきです。

今年成人式を迎え、未来を担っていく若い方々は、どうか国の政治が平和や人々の幸せにプラスになっているか否かを見極める叡智をもって生きていただきたいと思います。その指針として憲法の条文を熟読するのもよいのではないのでしょうか。

野田・九条の会呼びかけ人

森本房子

今月の予定

- 1月 9日(祝) 9時～ 新成人にアピール 野田市総合体育館前
- 1月 14日(土) 10時～12時 定例会 紙ふうせん清水店
- 1月 15日(日) 10時 さよなら原発署名集め
うめさとグリーンパーク自治会館前集合、住宅地を回って署名集めをします
- 1月 27日(金) 10:30～12:30 学習会 櫛のホール4階 和室
「福島のと私たち」放射能汚染から子どもたちを守る会 主催
- 2月 4日(土) 14時～「今語る ニューギニア戦の真実」
櫛のホール4階 研修室 語り部の会 主催
- 2月 5日(日) 13時～ DVD上映会「BOX 袴田事件 命とは」
南部梅郷公民館 野田南9条の会 主催

日本国民は、正当に選挙された国会における代表者を通じて行動し、われらとわれらの子孫のために、諸国民との協和による成果と、わが国全上にわたって自由のもたらす恵沢を確保し、政府の行為によつて再び戦争の惨禍が起こることのないやうにすることを決意し、ここに主権が国民に存することを宣言し、この憲法を確定する。「日本国憲法前文」より

島の生活を守るっていうのが、そんなものって言える人たちが、 原発作ろうとしてるのかなって思うと、悲しいですね

「祝い島の人たちは、なんであんなに原発に反対するんだっていう電話があって、自分たちの生活や暮らしを、まあ、守るためですと、まあ、そのために海を守ったり、原発のことをやっていると云ったら、なんかそんなものために、たくさんの人に迷惑をかけて恥ずかしくないのかって言われて。まあ、やっぱり、そういうこと、島の生活を守るっていうのが、そんなものって言える人たちが、原発作ろうとしてるのかなって思うと、悲しいですね。」

映画『ミツバチの羽音と地球の回転』の中で祝島の青年が語った言葉です。祝島では住民の9割が29年間も上関原発の建設に反対し続けてきました。彼らは自分が生きる土地と環境を愛し、農漁業で暮らしを立てていくことを選択しています。その暮らしを守ろうと、原発に反対することは、たくさんの人に迷惑をかける恥ずかしい行為なのでしょうか。そんなことはないと思う反面、わたしたち自身もまた「そんなものって言えるひとたち」の一人なのではないか、小さな一地方の生き方、願いをどこかで切り捨ててきたのではないか、とも考えてしまうのです。

先の「たくさんの人に迷惑をかけて恥ずかしくないのか」は全体の利益のために私的な利害に同調を求める圧力で、別の意見や立場を簡単に否定してしまう態度です。しかもこの全体の利益なるものは、往々にして民主的なプロセスを経てわたしたち自身が判断し形成したものではありません。むしろわたしたちは、それが真に全体の利益に適っているのか問うこともなく、「お上の決めたこと」として受け入れ、長い年月を経て培われてきた暮らしを「そんなもの」として無造作に切り捨ててるのです。こうした態度が主権在民の憲法のもとでも今なお支配的であるのはたいへん残念なことです。

「そんなもの」と切り捨てられてきたのは、瀬戸

内海の小さな島の願いだけではありません。「平和で豊かな、基地のない沖縄に」という県民挙げての沖縄の願いもまた、米軍による日本防衛という幻の大義の前に、「そんなもの」として66年も退けられ続けています。人口は全国の1%、面積は0.6%。この小さな沖縄に在日米軍の74%が押し付けられ、日々危険に晒される暮らしを強いられています。

3・11から間もなく1年。原子力政策はじめ「お上の決めたこと」が決してわたしたちの暮らしを守るものではなかったことが明らかになってきています。祝島や沖縄の願いは「そんなもの」と切り捨ててしまえるものなのかどうか、わたしたちひとりひとりがあらためて自分自身に問いかけてみる必要があるのではないのでしょうか。（富村友子）

福島のと私たち 講演と懇談

1月27日（金） 10:30~12:30

会場 櫛のホール 4階和室

講師 福島農民連会長 亀田俊英さん

参加費 500円

3月11日当日、福島はどのような被災状況であったのか？水素爆発が起きた時、それ以後今日に至るまでの現地の様子はどのようなだったのでしょうか。詳しいお話をお聞きしたいと思います。

またその後、放射能汚染の被害は日に日に明らかになり、野田も南部を中心に線量が高く、「汚染状況重点地域」に指定されました。市内の学校給食の放射能測定は、全品検査からは程遠く保護者の心配は絶えません。除染をしても放射能がなくなるわけではなく、私達は今後長期間、放射能とどのように付き合っていけば良いのでしょうか。皆さんで悩みを出しながら、知恵を出し合って、原発事故と私達の暮らしを考えたと思います。ぜひ誘い合ってご参加ください。

主催・放射能汚染から子どもたちを守る会

保育あり（要申し込み）・連絡先-7125-4153